

## 序

ここに、昭和52年度の研究成果報告書を刊行するに至った。誠に喜びに堪えない。ところで、各位と共に長年に亘り苦楽を共にし、鋭意努力して来たこの厚生省心身障害研究補助金による「進行性筋ジストロフィー症の成因と治療に関する臨床的研究」は、継続研究計画の年次進行と共に、愈々今回、昭和52年度をもって最終年に到達し、ここに一応の終止符が打たれることになったことを報告しなければならない。惜別にも似た感懐もないことはない。

発端に遡って筋ジストロフィーの研究事業を顧れば、最初は昭和39年、特定の国立療養所内に筋ジストロフィー病棟を設置し、患児の療育を行うという国の方針に呼応して発足したものである。当初は8施設を中心とする極めて小規模な研究会形式のものであったが、昭和44年、厚生省特別研究費補助による臨床社会学的研究に採用され、さらに、昭和46年来は心身障害研究費補助金補助による前述研究事業として、一段と大型化された研究班に発展するに至った。そして、参加施設数も次第に増加し、国療21、大学3となり、収容患者数も約1,500名を越え、班会議出席者数も約300名を算するに至った。

ともかく、この研究事業は筋ジストロフィー症という単一疾患を中心に、発足以来10数年にも亘り継続してきたものであってみればこの間、色々な紆余曲折があったとしても不思議ではない。ところが、本研究はこの宿命的難病ただ一筋にこれを対象として、あらゆる風雪に堪えて研究の火を灯し続け、遂には巨大な炬火に点火することができたものである。ここに、われわれ研究者はそれが示した不屈の研究意欲とその不朽の成果にささやかな誇を感じる。もっとも疾患そのものの性格もあって、病因を解明して治愈に導くと云うような華々しさを期待することはできなかったけれども、常に誠実に、病気は病気として科学的に取り扱い、同時に病人としてこれに温かく対処するという態度を忘れなかった所に本研究の特質があった。本研究班の8部会研究のうち生化学的ならびに基礎的研究、機能障害および病態生理学的研究は主として前者に属し、看護や心理障害、栄養、療護機器開発研究等は主として後者に属するものであった。本年度は従前を亨け、当面の重要テーマについては後述の如く共同研究として取りあげ、高次の専門に関わる特定課題については指定研究として発展を図った。

本症の研究成果の特徴としては、多数例について長期にわたり観察し、あらゆる角度から詳しく検討できたこと、また、患者の療護については物心両面から手厚いアプローチを試み、全人的立場から彼等に生き甲斐を与えるよう努力してきたこと、さらに、多彩な基礎的研究を通し、常に病因論との接点を求め、臨床の実際に還元し得るよう心を砕いた事などがあげられる。そしてこれら研究業績はいずれも日常臨床の多忙の中に精魂を傾けて仕上げられた珠玉編であり、その独自な内容と質は内外諸学会の批判にも堪え得るものと考えられ、患者の福祉に寄与するところ少なくないと感じている。その一次的効果としては患者の延命その他の面でも見られるが、二次的効果としては診療実績の質的、量的向上としても現われている。

ここに、本研究事業を閉じるに当り、不肖私が長年班長としてお世話して来たのであるが、至

らぬ点多々あったことと反省し、御寛容をお願いしたいと存じている。しかし、この間、研究者各位、厚生省当局、日本筋ジストロフィー協会などから戴いた一方ならぬ御厚情と温かい御指導、御支援に対しては衷心より感謝申し上げる次第である。と同時に研究事業の中途において、その完成も見ずに夭折された貴い生命に対し、深く哀悼の誠を捧げるものである。各位の自彊、自愛を折る。

班 長 山 田 憲 吾

↓  
**検索用テキスト** OCR(光学的文字認識)ソフト使用  
論文の一部ですが、認識率の関係で誤字が含まれる場合があります  
↓

序

ここに、昭和 52 年度の研究成果報告書を刊行するに至った。誠に喜びに堪えない。ところで、各位と共に長年に亘り苦楽を共にし、鋭意努力して来たこの厚生省心身障害研究補助金による「進行性筋ジストロフィー症の成因と治療に関する臨床的研究」は、継続研究計画の年次進行と共に、愈々今回、昭和 52 年度をもって最終年に到達し、ここに一応の終止符が打たれることになったことを報告しなければならない。惜別にも似た感懐もないことはない。